

事業戦略 | セーフティシステム製品 (SS)

MESSAGE

高性能な安全製品を
グローバルに普及させ、
交通事故死傷者低減に
貢献します。



執行役員 SS 事業本部長
山本 直

SS事業方針

世界では毎年約120万人の人々が交通事故で亡くなっています。SS事業は安全に関わる事業として、より安全な製品を世に出し、より多くの製品を使っていただき、交通事故死傷者低減に貢献することを目指します。

一方SS事業は当社の売上の約4割を占める事業となりました。全社の2030事業計画を達成するためにも、SS事業として2030年度の売上5,000億円以上、さらなる収益性向上を目指します。

2024年度の振り返り

2024年度はグローバルで主要顧客の生産台数が増加し、過去最高の売上を達成しました。また日本国内における生産性向上、比例費低減の取り組み、グリップ検知やヒーター等の機能を持ったハンドルの売上比率の向上が、収益性の向上につながりました。

将来に向けた開発の取り組みでは、自動車安全に関する国際シンポジウムの「Airbag2024」で将来安全に関する研究成果を発表し、当社の考える将来安全への課題を発信することができました。

量産については、インドにおける安全アセスメント強化を背景に装着が始まった側面衝突エアバッグの生産を開始、さらにエアバッグの装着拡大に向けてインド北部ニムラナ工場を拡張、稼働を始めました。またブラジルにおける現調化ニーズに応え、既存拠点の生産能力強化を行いました。

今後の成長に向けた取り組み

SS事業方針の目指す姿を達成するための戦略の3本柱は以下の通りです。

① グローバル一体となった競争力強化

当社が中心となり、海外拠点やパートナー企業と連携し、グローバル戦略を立案、競争力を高めます。

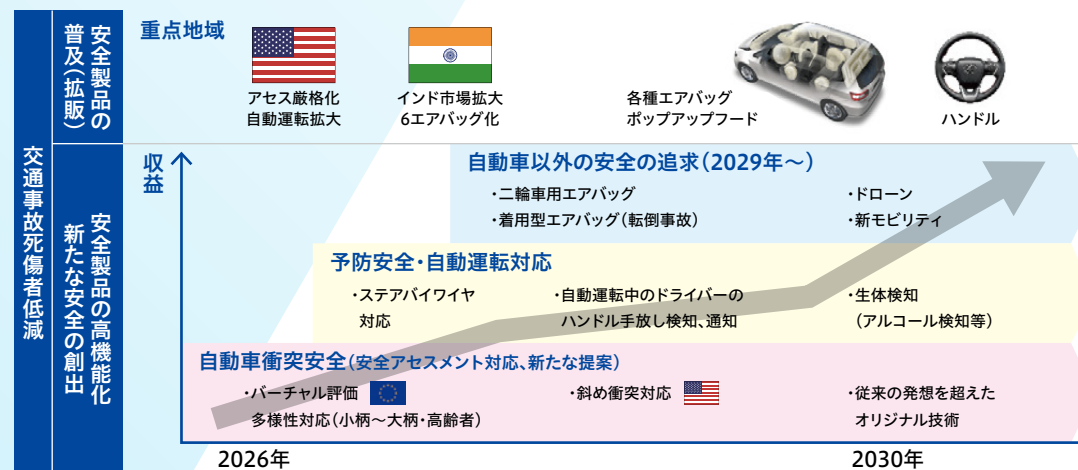
② 重点地域、顧客を見定めた拡販

環境変化により成長機会のある地域を重点に既存顧客に加え、新たな顧客への拡販を狙います。

③ 交通事故死傷者低減に向けた新製品開発

自動車用エアバッグやハンドルの高機能化、さらなる交通事故死傷者低減に向けて自動車以外にも安全を提供する新製品を開発します。

SS事業戦略 目指す姿の達成に向けた考え方



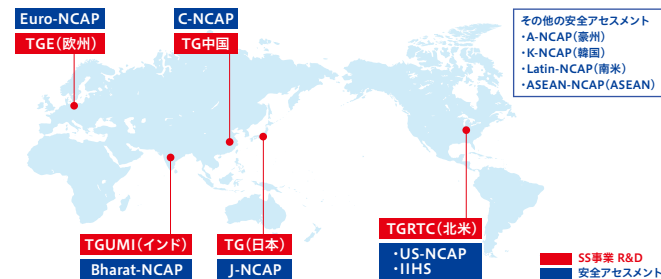
事業戦略 | セーフティシステム製品 (SS)

グローバル一体となった競争力強化

現在SS事業の売上構成はトヨタ自動車以外のOEM、海外の売上比率も高くなっています。SS製品は顧客やグローバル各地域の交通事情に合わせた安全アセスメントにより異なる要求の中でもできるだけ標準化を行うことが重要です。またSS製品は材料や構成部品の多くを購入品が占めており、サプライチェーン戦略も重要です。これら狙う顧客や地域に合わせた製品仕様や生産技術、サプライチェーン等の戦略を本社が立案、各拠点と共有し、グローバル一体となって事業計画を推進しています。

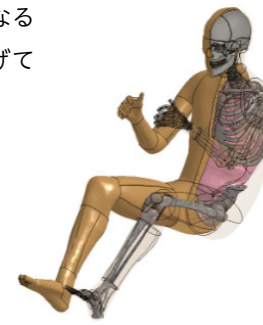
また新製品の開発には各地域の事故調査や安全アセスメント対応が重要です。当社ではグローバルR&Dで連携したアンテナ活動により、各地域のカンファレンスへの参加や関係機関からの情報収集を行い、グローバルで共有し、新製品の開発に繋げています。

当社R&D拠点と各地域の主なアセスメント



さらに海外も含めた医科学系大学との医工連携を行い、THUMS (仮想人体モデル) を用いたコンピュータシミュレーション技術により、アセスメント等でまだ評価されていない内

臓等の受傷状態を評価し、さらなる自動車安全性向上の提案に繋げていきます。



THUMS[®] (仮想人体モデル)
※Total Human Model for Safety

重点地域、顧客を見定めた拡販

北米

SS事業において北米は日本に次ぐ売上となっています。また北米は欧州や中国と並び、自動車の安全アセスメントや自動運転技術で世界をリードし、エアバッグやハンドルの高機能化ニーズの高まりという環境変化もあります。これらの背景により、北米市場を重点と捉え、さらなる拡販を目指します。日系OEMについては既存ビジネスに加え、新型車への拡販を狙います。北米OEMについては、北米R&Dの強化により、従来以上に北米OEMのニーズをとらえた仕様提案、技術認知が行えるようになり、今後のさらなる拡販を目指します。

製品面では北米特有の安全アセスメント厳格化に対応する新たなエアバッグや自動運転に対応したHMIハンドルを重点に、既存製品とあわせて拡販活動を行っています。

つくりの面では量増に伴う生産キャパの確保と労務費高騰に対する安いモノづくりが課題となっています。これらの課題解決のためには自動化技術が鍵になると考えていますが、投資過多にならないように、これまで培ったからくり等を用いた賢いモノづくりと組合せ、低投資で効果的なモノづくりを目指します。

インド

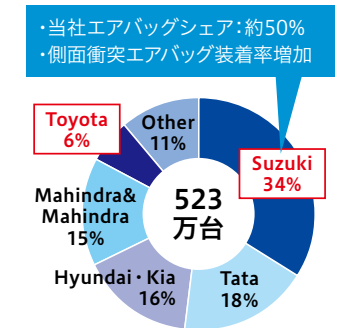
自動車の成長市場であるインドでは、当社の主要顧客である日系OEMがインド市場の約4割のシェアを占め、当社のSS製品は其中で約半数のシェアを占める重要な市場です。

一方インドは交通事故死者数が世界1位と社会問題となっており、導入済の前面衝突エアバッグ義務化に加え、2023年に見直された安全アセスメントで高評価を獲得するために側面衝突エアバッグの普及も始まりました。同時に現地開発ニーズも高まり、当社では2023年に技術センターの移転、拡張を行い開発体制を強化し、試作、製品評価、コンピュータシミュレーションを一貫で行えるようになりました。これによりTata等の現地OEMにも積極的に技術提案を行っていきます。

今後インドにおける当社SS製品の生産数は2024年度の約650万個から2030年度の約1,000万個になる見込みで、キャパ確保のためにインド南部のハロハリ地区で新工場が2026年に稼働予定です。さらに内製加工だけでなく、パートナー企業と戦略を共有した材料や構成部品の現調化を推進し、競争力強化を進めます。

インド市場OEMシェア

インドのメーカー・ブランド別自動車販売実績
24年次 Marklinesより



インド新技術センター (TGTCI)



従業員: 50名 面積: 1,200㎡

事業戦略 | セーフティシステム製品 (SS)

交通事故死傷者低減に向けた新製品開発

多様な乗員の保護

これまで自動車の衝突試験では、様々なセンサーを組み込み人体構造を模擬したダミー人形を使用して、衝突時の人体の挙動や傷害値の評価を行ってきました。それにより乗員保護性能が進歩してきましたが、ダミー人形を用いた実機試験では体格、年齢、性別等の種類や試験数を増やすことに課題がありました。今後はコンピュータシミュレーション技術を用いて多様な乗員体格を再現したバーチャル評価が始まり、エアバッグにも進化の機会となります。

当社では小柄から大柄まで幅広い体格の乗員にさらなる安全を提供する立体エアバッグを開発しています。

また自動運転の普及によりシートスライドやリクライニング等の乗車姿勢の変化に対する安全確保も課題で、当社ではエアバッグの大きさやクッション性を調整する可変容量技術や可変ベント技術の開発により対応していきます。

将来に向けた開発アイテム

衝突安全 (多様性対応)	自動運転・予防安全対応	自動車以外の安全
 <p>2026年ターゲット 小柄から大柄まで幅広い乗員を保護する立体エアバッグ</p>	 <p>ドライバー通知 イルミネーション</p> <p>グリップ センサ</p> <p>2028年ターゲット 自動運転時にドライバーの手放し状態を検知し、光で通知するHMIハンドル</p>	 <p>2029年ターゲット 二輪乗車時の衝突で乗員を守る二輪車用エアバッグ</p>
 <p>2029年ターゲット リクライニング等の乗車姿勢の変化に合わせてエアバッグの大きさやクッション性をコントロールする可変容量/可変ベント</p>	 <p>LEXUS RZ550e F SPORTに採用</p> <p>ステアバイワイヤシステム用ステアリングホイール</p>	 <p>実車衝突実験の様子</p>

自動運転や予防安全に対応する技術

自動運転技術の進化により、自動運転レベル2の自動車が普及し始めました。しかしシステムが対応できない状況も存在するため、運転中のドライバーは常にハンドルを持ち、緊急時に運転操作に介入する必要があります。当社にはドライバーがハンドルを握っていることを検知する機能や車両が検知した運転中の危険な状態を振動やイルミネーションで通知する機能を持ったハンドルがあり、今後は衝突安全だけでなく予防安全にも貢献していきます。

また電子制御による操舵技術「ステアバイワイヤ」により、何回転もハンドルを回転させる必要がない自動車も登場しており、当社でもステアバイワイヤ対応の円形でない異形ハンドルを量産化しました。

今後も機能&デザインの両面で様々なハンドルのニーズに対応していきます。

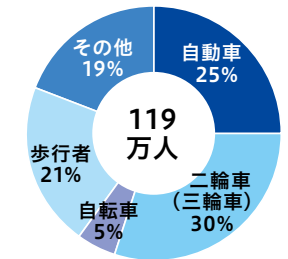
さらなる交通事故死傷者低減の取り組み

安全技術の進化、普及により、自動車に關与する交通事故死傷者は低減すると予想されますが、それ以外の交通手段に關与する交通事故死傷者低減も課題です。

特にASEANやインドを中心に二輪車に關与する交通事故死傷者が多く、当社ではライダーを守る二輪車用エアバッグの開発を進めています。さらには歩行者や自転車、ドローン、様々な新モビリティ等に安全を提供する新製品の開発も進めています。

新製品の開発においては、グローバルR&Dが連携した事故調査行い、実機評価とバーチャル評価を組み合わせ、効率的に進めています。

世界の交通事故死者内訳
Global status report on road safety 2023
WHO発行より



協業シナジーによる競争力確保

グローバルで戦う上で、既存製品のさらなる高機能化やこれまでにない新製品の創出の際に、当社の技術やリソースだけでは対応できない課題に直面することもあります。シートベルトや電子部品、火薬や基布等の高い専門性を持ったパートナー企業との協業シナジーでその課題を乗り越えていきます。

これからも当社はさらなる安全製品の普及、新製品の開発により交通事故死傷者低減に貢献していきます。

事業戦略 | 内外装部品 (IE)

MESSAGE

エンドユーザー /
顧客ニーズを捉え、
商品開発 / モノづくり
競争力の進化に
ブレなく誠実に
取り組みます。

執行役員 IE 事業本部長
林 賢士



内外装部品事業方針

私たちを取り巻く社会・環境・自動車市場の変化と、顧客、エンドユーザーのニーズを正しく捉え、高付加価値の内外装部品で、より良いモビリティ社会の実現を目指していきます。

次世代自動車の拡大を見据えて、内装部品では照明、空調といった新しい機能でエンドユーザーに「安心・安全・快適な車内空間」を提供し、外装部品では発光・レーダー透過・新加飾技術で「デザインと機能を融合」させた新しい価値を創出していきます。

また、製品自体の軽量化や再生可能材料の活用を拡大させ、環境負荷の低減を図るとともに、製造工程の脱炭素化や再生エネルギーの活用も進め、サプライチェーン全体でCO₂を削減し、持続可能な社会の実現を支えています。

内装部品

近年、自動運転技術の進展や電動車の普及により、車内空間の在り方が大きく変化しています。ユーザーの運転体験に加えて、快適空間の体験にも価値を求めた「移動の快適性」や「五感に響く体験価値」への期待が高まっています。また静粛性の高いBEVでは、照明・音響・空調といった空間演出要素の重要性がより一層増えています。

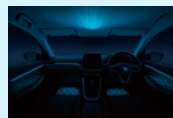
こうした変化を受け、インパネ、コンソール、レジスタ、イルミネーションなどの内装部品は、エンドユーザーの体験を起点に進化を遂げています。例えばイルミネーションでは、感性工学に基づいた色温度や拡がりの設計により、安心感や快適性を演出するとともに、安全通知としての役割も担います。コンソールは、人間工学に基づいた操作性と収納性の両立により、使い勝手の良い空間を提供。レジスタでは、人が「必要と感じる部位」にだけ風を届ける“パーソナル空調”により、快適性と電費向上の両立を図っています。

今後は、環境配慮素材の活用や軽量化による電費向上を追求しながら、カーボンニュートラルにも寄与する内装部品の進化を加速させていきます。

快適車内空間の創造



移動の快適性／体験価値への期待に対応



イルミネーション



コンソール



レジスタ

外装部品

外装部品は「ブランドの顔」と同時に、自動運転を支える機能部品としての重要性が増えています。顧客ごとの事業戦略への対応やモデルライフマネージメントの重要性の高まりとともに、車種やグレードごとの違い、さらにはカスタマイズへの対応まで、どのようなデザインにも対応できる柔軟な開発・設計対応力が求められています。

これを受け、ライティンググリル、発光エンブレム、ボデー色ミリ波透過パネルなどの外装部品は、デザイン性と機能性の両立を軸に進化を遂げています。例えば、光によるブランド表現や車外との情報伝達を担う“サイネージ”としての機能を持たせつつ、ミリ波レーダーなどのセンシング性能を確保させる設計も可能となっています。加えて、環境に配慮した型内塗装やホットスタンプといった、塗装レスで美しい外観を実現する加飾技術も活用し、持続可能な社会づくりにも貢献する存在へと進化を遂げています。

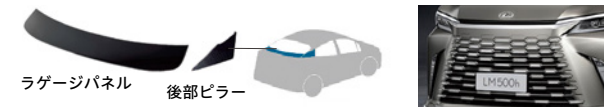
今後も、環境配慮素材の活用や製造プロセスの革新を通じたカーボンニュートラルへの貢献と、デザイン性、機能性、安全性、環境性能等多様な価値を備えた製品開発を進めていきます。

多様なデザインへの対応



デザインと機能を両立しブランド表現やサイネージに対応

環境に配慮した加飾技術



レーザーパネル 後部ピラー

<型内塗装>

<ホットスタンプ>

事業戦略 | 内外装部品 (IE)

樹脂リサイクル材料

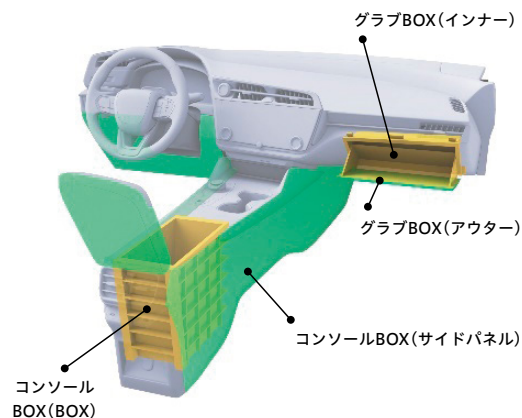
欧州では自動車のプラスチック材料に関して、ELV指令案において全樹脂使用量の25%をリサイクル材とし、そのうち25%を廃自動車由来材料とすることが検討されています。日本においても自動車向けの樹脂リサイクルの取り組みが本格化しており、自動車メーカー各社がリサイクル材の採用を積極的に検討しています。

このような背景のもと、自動車部品の専門メーカーである当社は、サーキュラーエコノミーと脱炭素化への貢献を目指し、画期的なプラスチックリサイクル技術を確認しました。特に注目すべきは、自動車の内装・外装部品に最も多く使用されるポリプロピレン (PP) において、廃車由来材料を50%含む高強度リサイクル材の開発に成功したことです。

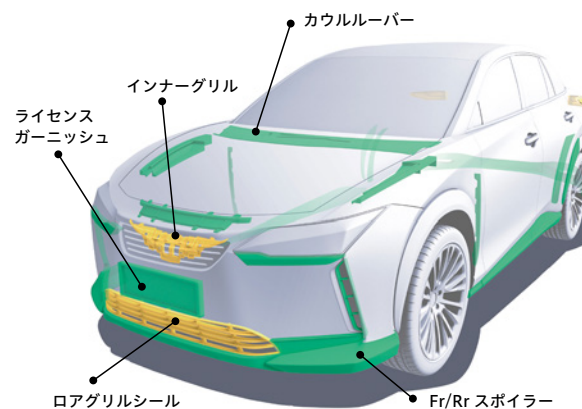
この技術開発では、リサイクル材料の従来課題であった異物混入や物性低下に対し、独自の技術で解決策を見出しました。具体的には、回収バンパーからの効率的な塗膜剥離技術と、バージン材同等の物性を実現する材料配合設計技術を確認。これにより、高い品質が求められる自動車部品への実用化を実現しました。

内装用途における世界初、外装用途におけるトヨタ向け初の採用実績は、当社の技術力の高さを示すものです。今後は意匠部品など、さらなる用途拡大を目指すとともに、活用可能なリサイクル原料の拡大にも取り組み、自動車産業における環境負荷低減とサーキュラーエコノミーの実現に向け、樹脂部品専門メーカーとしての責務を果たしていきます。

内装部品への適用イメージ



外装部品への適用イメージ



■ リサイクル材適用部品 ■ 今後の適用拡大部品

用品戦略

自動車販売の増加、カスタマイズの流行などにより自動車用品の市場拡大が見込まれています。それに伴い、各OEMもエンドユーザーが自分の車をカスタマイズできるよう多様なアクセサリパーツを提供する戦略を取っています。

特にSUV車のエアロパーツの需要は高く、当社でも新加飾、照明などで差別化した高付加価値のエアロパーツ商品を積極的に開発しています。

また、各OEMの新車～廃車までサービスを提供する戦略にも追従し、アフターマーケットビジネスへの事業拡大も視野に入れた用品戦略で、エンドユーザーの声を直接聞き、新規開発品の早期市場投入と各OEM新型車への新商品提案につなげていきます。

用品 (代表製品)



事業戦略 | 内外装部品 (IE)

グローバル戦略

近年、電気自動車を中心とした次世代自動車の拡大により、先進的なデザイン、走行距離を延ばすためのさらなる軽量化といった、当社が得意とする樹脂製品への期待がグローバルで高まっています。

当社のIE事業ではグローバル戦略を積極的に推進しており、日本だけでなく北米、南米、中国、タイ、インドなど世界各地に技術開発拠点、生産拠点を設立、拡充しています。このグローバル体制で現地の市場ニーズに合わせた商品開発と、安定した製品供給を実現し、主要な自動車メーカーのグローバルサプライチェーンにおいて重要な役割を担っています。

今後は2030事業計画の鍵を握る、売上規模も大きく堅調な成長を遂げている米州と、市場成長が著しいインドを重点地域として、計画的な設備投資、新製品の市場投入を進めるとともに、現地での人材育成も進めていきます。

地域別売上への考え方



米州

BEV化が加速している米州では新製品の導入を通じて市場での競争力を高めています。レーダー透過技術を有するボディカラー色のグリルカバーや、快適な車内空間を実現するための冷蔵庫付きコンソールボックス等、高付加価値の製品を市場に導入しています。

また主要顧客のBEV生産拡大に応えるため、昨年からTGミズーリ株式会社、TGケンタッキー有限会社で建屋拡張・生産設備増のための大規模な投資を実施しています。

今後は、アメリカの技術開発拠点を活用し従来の顧客だけでなくデトロイト3向けのビジネスを拡大させ、さらなる事業拡大を目指していきます。

北米における内外装部品の生産体制



インド

インドは急速に成長する自動車市場であり、特に乗用車(PV)市場は現在の400万台から2030年度に約700万台まで成長すると予測されています。顧客の自動車生産も拡大が見込まれ、当社でもインドをビジネス拡大の重要市場と捉えています。

IE事業では、次世代自動車向けの新規開発製品を現地での新商品展示会等を通じてPRし、従来顧客に加えて、新規顧客に向けた拡販活動を積極的に実施しています。

同時に、積極的なリソース投入と設備投資を行い、現地開発、現地生産の拡充を図ることで、競争力を高めて安定的な高品質製品の提供と、今まで蓄積してきた技術革新でインドでの持続可能な成長を目指していきます。

インド「バーラト・モビリティ・グローバル・エキスポ 2025」での展示品



Flesby BEV コンセプト



発光機能付きミリ波レーダー対応エンブレム

事業戦略 | 機能部品 (FC)

MESSAGE

全方位戦略を推進することで新モビリティ普及に貢献し、さらなる成長を目指します。



執行役員 FC・WS事業本部長
小笠原 豊

2024年度の重点取り組み

モビリティの電動化により、自動車の基本性能「走る」「曲がる」「止まる」を支えるFC製品が様変わりする中、市場動向とOEMニーズのマルチパスウェイ戦略に柔軟に対応する全方位戦略を推進しています。

機能	ガソリン車	HEV PHEV	BEV	FCEV
貯蔵・制御・供給	燃料タンク周辺部品	変化	高圧水素タンク	バッテリーケース
	樹脂フューエルフィルターパイプ		FCスタックマニホールド	
冷却			冷却配管	冷却ニーズが高い電動車はガソリン車比で配管の長さが約4倍

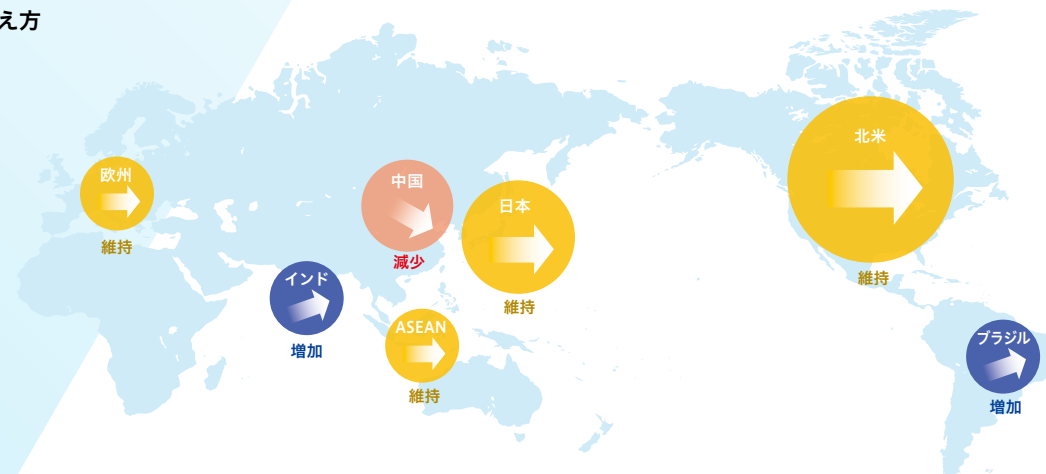
ガソリン車・HEV・PHEVへの取り組み

近年、世界各国・地域において、地球温暖化防止や大気環境改善を目的とした燃料蒸発ガス(エバポレーションガス)規制が強化されており、自動車の燃料タンクや配管から大気中に放出される揮発性有機化合物(VOC)への対応が求められています。

こうした規制強化に伴い、当社では、燃料蒸発ガスの排出を抑制する製品の開発とラインナップの拡充を進めてきました。具体的には、樹脂フューエルフィルターパイプ、燃料キャップ、燃料バルブ類など、FC事業の燃料系主力製品がその対応技術の中核を担っています。

また、グローバル市場における多様な規制要件に対応するため、各地域の法規制動向を綿密に調査・分析し、製品設計に反映させる体制を整えています。これにより、主要市場における燃料蒸発ガス規制に適合した製品の迅速な供給を可能とし、顧客のニーズに応えています。

地域別売上の考え方



インド

近年、堅調な経済成長と中間層の拡大を背景に、自動車市場が急速に拡大しており、世界的にも注目される成長市場となっています。こうした市場拡大に伴い、排出ガス規制(BS-VI)の導入など、環境規制も段階的に強化されています。

当社では、こうしたインド市場の動向を踏まえ、燃料系製品における需要の継続を見据えた生産体制の強化を進めています。

ブラジル

南米最大の経済圏として、安定した経済成長と旺盛な消費需要を背景に、自動車市場が力強い拡大を続けています。また、内燃機関を搭載した車両が依然として全体の90%以上を占めており、電動車の普及は進みつつあるものの、まだ過渡期にあります。

こうした市場環境を踏まえ、当社ではブラジルにおける自動車燃料系製品の需要が今後も継続すると判断し、生産体制の強化とサプライチェーンの最適化に取り組んでいます。

事業戦略 | 機能部品 (FC)

BEVへの取り組み

近年、世界的にBEVの普及が加速する中で、車両の熱マネジメント技術の重要性が一層高まっています。BEVは、走行中や急速充電時にバッテリーが発熱する特性を持つため、安定した温度管理が車両の性能・安全性・信頼性を左右する重要な要素となっています。

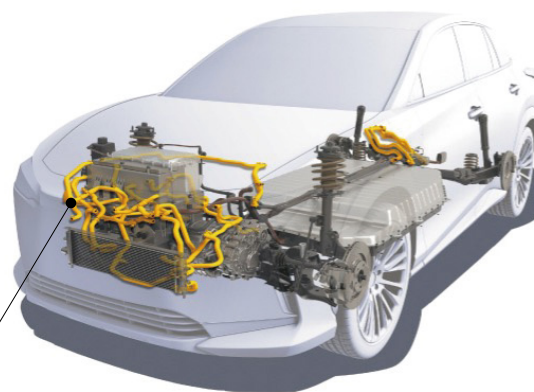
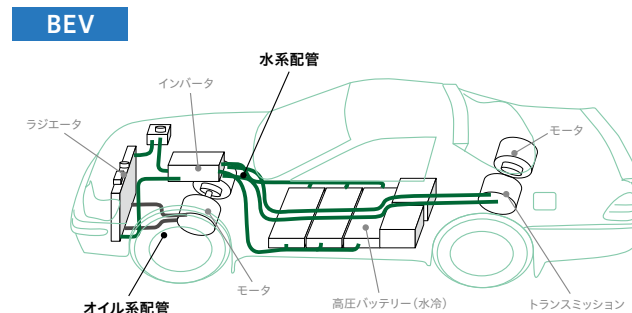
こうした背景を踏まえ、当社では熱制御に関わる製品開発への取り組みを強化し、次世代モビリティ社会に貢献する技術の確立を目指しています。

冷却配管

当社はこれまで、ゴムホースや樹脂チューブといった流体制御部品において培ってきた材料技術・成形技術・設計ノウハウを活かし、BEV向けの冷却システムに最適な製品開発を推進しています。特に、バッテリーの冷却においては、冷却液を効率的に循環させるための配管部品の軽量化や耐久性の向上に加え、車両設計の自由度を高める柔軟なレイアウト対応が求められています。当社の製品は、バッテリーパックの冷却のみならず、インバーターやモーターなどの電動ユニットの熱制御にも適用されており、BEV全体の熱マネジメント性能の向上に寄与しています。

冷却配管

バッテリーを適正な温度に保つことで電池の長寿命化につながるとともに、クルマの航続距離の延長にも貢献しています。



グローバル展開

さらに、グローバル市場におけるBEV需要の拡大に対応するため、当社は開発・生産体制の強化にも注力しています。各地域のOEMごとのニーズや車両仕様に応じた製品設計を可能とするため、開発拠点の整備を進めるとともに、現地生産体制の構築を通じて、品質・コスト・納期の最適化を図っています。これにより、北米・欧州などの主要市場において、BEV向け製品の安定供給体制を確立し、グローバルでの事業拡大を実現しています。

今後も当社は、BEVの進化とともに高度化する熱制御ニーズに的確に応えるべく、材料技術・成形技術・流体制御技術を融合させた製品開発を継続的に推進していきます。加えて、環境負荷の低減と製品の信頼性向上を両立させる熱マネジメントソリューションの提供を通じて、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献していきます。電動化が進む中で、当社は単なる部品供給にとどまらず、車両全体の性能と価値を高めるパートナーとして、新たな価値創出に挑戦し続けていきます。

事業戦略 | 機能部品 (FC)

FCEVへの取り組み

当社は、カーボンニュートラル社会の実現に向けた世界的な潮流の中で、次世代エネルギーとして注目される水素の活用に着目し、FCEVをはじめとする水素関連分野への取り組みを強化しています。水素は、使用時にCO₂を排出しないクリーンなエネルギー源であり、再生可能エネルギーとの組み合わせによって、製造から利用までの脱炭素化が可能となることから、将来のエネルギーインフラの中核を担う存在として期待されています。

こうした背景のもと、当社では、水素社会の実現とその拡大に備えた体制強化を進めています。特に、FCEV向けの高圧水素タンクの開発・製造においては、長年培ってきた高分子材料技術と成形技術を活かし、安全性・軽量性・耐久性に優れた製品を提供しています。これらのタンクは、自動車分野にとどまらず、船舶向けの水素燃料システムや、脱着式ポータブル水素カートリッジなどにも採用されており、モビリティの多様化とともに、水素利用の可能性を広げています。

大型高圧水素タンク

主に商用車や船舶に採用されており、乗用車用と比べて約8倍の水素の充填が可能です。



船舶分野では、国際的な排出ガス規制の強化に伴い、ゼロエミッション燃料としての水素導入の実証が進んでおり、当社の高圧水素タンクは、航行中の安全性と燃料供給の効率性を両立するソリューションとして注目されています。また、ポータブル水素カートリッジは、水素を安全かつ手軽に持ち運び、各種機器に装着できるため、水素を燃焼させる水素調理器や燃料電池と組み合わせた電源など、幅広い用途での水素エネルギーの利用を可能にします。

当社は、これらの製品群を通じて、モビリティ分野における水素利用の拡大のみならず、社会全体のエネルギー構造の転換に寄与することを目指しています。今後は、さらなる技術革新と製品ラインナップの拡充を図るとともに、グローバル市場における需要の高まりに対応した生産体制の強化を進めていきます。

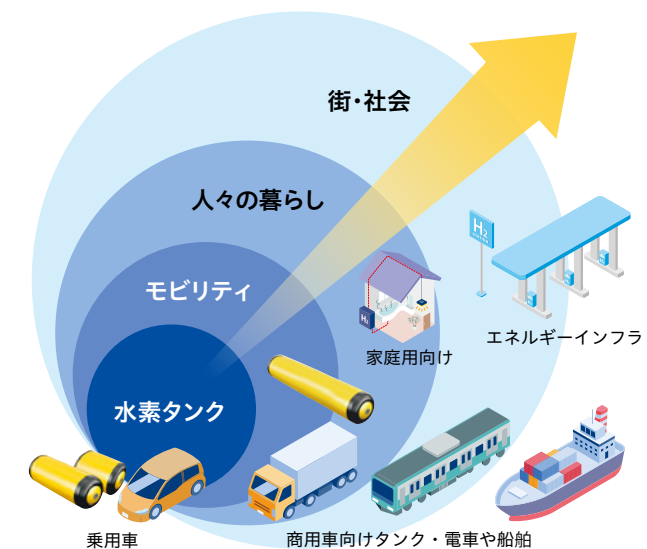
今後も、各種モビリティや暮らしの幅広い分野における水素利用のニーズに応じたタンクの提供を通じて、水素社会の実現に貢献していきます。

水素タンクが搭載された旅客船「HANARIA」



(写真: MOTENA・Sea社HPから引用)

水素タンク事業の拡がり



ポータブル水素カートリッジ (提供: トヨタ自動車)



国内向け

欧州向け

事業戦略 | ウェザストリップ製品 (WS)

MESSAGE

顧客満足と技術革新で、
ウェザストリップ事業の
未来を創ります。



執行役員 FC・WS事業本部長
小笠原 豊

2024年度の振り返り

2024年度は、当社のウェザストリップ事業にとって、次なる成長への礎を築いた一年となりました。

私たちは、材料費ロスの低減や生産性向上など、現場での改善活動を積み重ねることで、より効率的な生産体制を整備しました。

また、電動化の進展やADASの普及に伴い、静粛性や快適性へのニーズが高まる中、ウェザストリップ製品が果たす役割はますます重要になっています。CN対応製品や、将来のモビリティを支える新技術への対応も進めており、今後の市場ニーズに応えるための準備を着実に進めています。

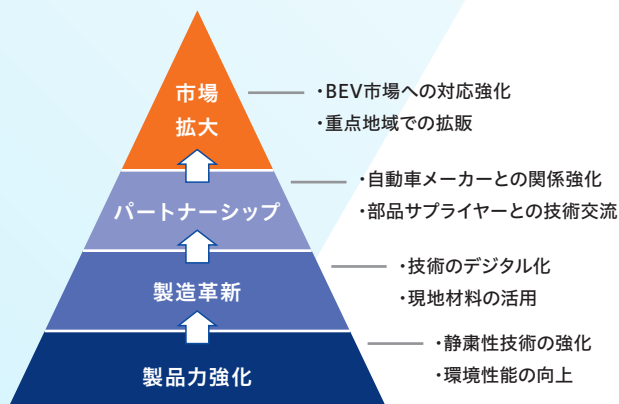
2025年度も革新と挑戦を重ね、ウェザストリップ事業を通じて未来のモビリティ社会に貢献していきます。

拡販戦略

当社のウェザストリップ製品は、品質と耐久性に優れ、世界中の自動車メーカーから高い評価を受けています。今後の拡販戦略として、以下の施策を展開します。

まず、新商品の開発や成長が期待される地域にリソースを集中します。市場価格を見極め、既存製品に対して付加価値を上げるプライシング戦略を実施することで、より高い顧客満足を得るとともに持続可能な成長を実現します。

次に、新興市場での拡販を加速します。特に、インドやブラジルなどの自動車産業の成長が著しい新興市場への進出を強化し、グローバルな事業基盤を強化します。これらの地域では、ウェザストリップの拡販の機会が望めます。現地のニーズに合わせた製品開発を行い、競争力を高めます。また、現地の自動車メーカーとの協力関係を強化し、市場シェアの拡大を目指します。



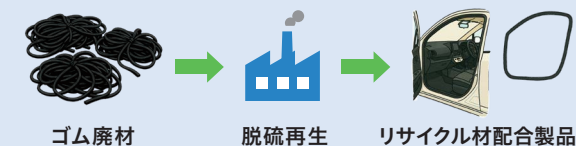
さらに、展示会や業界イベントに積極的に参加し、製品の魅力と付加価値について広くアピールします。これにより、製品の認知度を高め、購買意欲を喚起します。またタイムリーに製品情報を発信し続けることで顧客とのコミュニケーションをさらに強化します。

最後に、パートナーシップの強化を図ります。国内外の自動車メーカーや部品サプライヤーとの協力関係を深め、共同開発や技術交流を進めます。これにより、製品の付加価値を高め、市場シェアの拡大を目指します。特に、BEV市場への進出を強化し、静粛性や環境性能に優れたウェザストリップを提案します。

これらの施策を通じて、顧客満足度の向上を図り、事業本部一丸となって取り組んでいきます。私たちは、革新と成長を追求し、ウェザストリップ事業で新たな価値を創造し、世界をリードしていきます。

ゴムリサイクル事業

当社は、製造過程で発生するゴム廃材を脱硫再生し、新たな製品へ循環利用しています。ISCC PLUS認証を活用し、環境価値と競争力を高めたりサイクル材を配合させた製品の拡販を推進しています。



事業戦略 | ウェザストリップ製品 (WS)

開発戦略

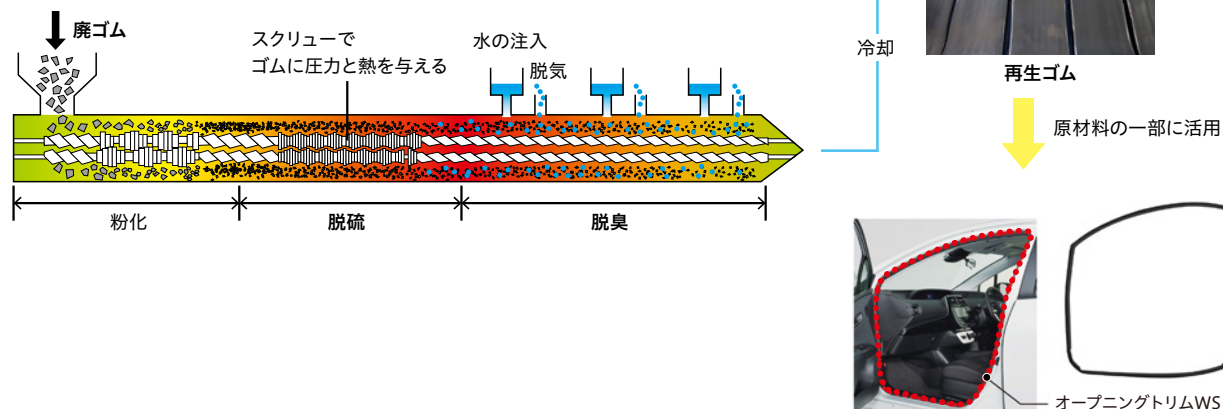
当社のウェザストリップ製品は、常に技術革新を追求し、高い品質と環境性能を両立させています。今後の開発戦略では、「環境負荷低減」「快適性向上」「スマート化」「グローバル展開」の4つの柱を軸に、持続可能な社会の実現と事業価値の最大化を目指します。

環境負荷低減

まず、環境負荷の低減に向けた素材開発を加速します。当社は、ゴム脱硫再生技術を活用した取り組みを本格化させています。2024年10月には静岡県森町工場にて再生ゴムの第2ラインを稼働させ、年間生産能力を1200トンに倍増。弾性や強度を維持したまま再生を可能にする技術により、従来法に比べて臭気大幅に低減され、品質面でも優れています。2025

当社のゴムのリサイクル技術

ゴムに弾性などを持たせる分子結合を解くために、最適な圧力と熱を加えることで、「短時間」で「高品質」なゴムの再生を実現

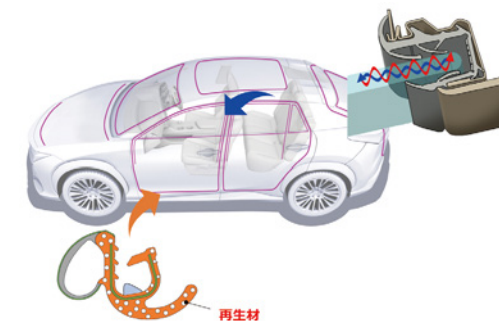


年度からは新材への配合比率を20%まで引き上げ、製品への本格適用を開始します。

今後はEPDM以外のゴムや他部品への展開、さらには廃車部品の回収・再利用を視野に入れた技術開発も進めており、資源循環型社会の構築に貢献していきます。

快適性向上

次に、製品の機能向上に向けた技術開発を進めます。特に静粛性技術の強化は、BEV市場の拡大に伴い重要性を増しています。当社は、インピダンスマッチング技術を活用した制振ガラスランや、風切り音を抑えるオープニングトリムなど、差別化された静粛アイテムの開発を推進しています。これらは中高周波域の騒音を効果的に低減し、快適な車内空間の実現に貢献します。また、トヨタグループとの協業により、ドア構造全体での静粛性提案や、個車ごとの性能に合わせたシール構造の



最適化も進めています。今後は、車両全体の音マネジメント技術を活用し、移動中でもくつろげる、居住性の高い空間づくりを目指した提案も進めていきます。

スマート化

また、製造現場のスマートファクトリー化を積極的に推進しており、その中核としてIoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)などの先進技術を活用しています。これらの技術を導入することで、従来は人の経験や勘に頼っていた作業をデジタル化し、より正確かつ効率的な工程管理が可能となっています。

グローバル展開

最後に、グローバルに技術展開を強化します。日本を中心に開発機能を集約し、各地域の特性に応じた製品仕様や工程設計を展開。特にインドやブラジルでは、現地材料の活用やライン能力の増強を通じて、競争力のある製品開発を進めています。

これらの取り組みにより、当社は単なる部品供給にとどまらず、車両全体の性能やユーザー体験に貢献する役割を強化し、顧客との信頼関係をより一層深めています。

創業以来培ってきたゴム技術を進化させながら、社会課題の解決と企業価値の向上を両立し、これからのモビリティ社会においても確かな存在感を発揮していきます。

事業戦略 | ウェザストリップ製品 (WS)

地域戦略

当社は、ウェザストリップ事業においてグローバル展開を進める中で、各地域の市場環境や顧客ニーズに応じた柔軟な事業運営を行っています。2025年度以降は、日本・北米・インド・ブラジルを中心に、地域ごとの特性を活かした製品開発・生産体制の強化を図ります。

日本

長年にわたり培ってきた技術力と品質管理を活かし、快適性や環境性能に優れた製品の開発を進めています。特に、BEVへの対応として、静粛性を高めるシール構造や、再生材を活用した環境配慮型製品の展開に注力。本社機能を活かし、グローバル拠点への技術支援や開発リードも担っています。また、製造現場ではIoTやAIを活用した工程の自動化・省人化を進め、品質の安定化と生産効率の向上を両立させています。

地域別売上の方



北米

安定した受注基盤を維持しつつ、製造コストや物流面での課題に対応するための改善活動を継続しています。現地のニーズに合わせた製品仕様の最適化や、合理的な生産レイアウトの構築を通じて、競争力のある製品供給体制を整備。また、環境対応製品や快適性向上アイテムの導入を進めることで、顧客満足度の向上にも取り組んでいます。

インド

今後の成長が期待される重要市場として位置づけており、現地材料の活用やライン能力の強化を通じて、競争力のある製品開発を推進しています。品質・コスト・納期のバランスを重視しながら、現地ニーズに即した製品展開を進めるとともに、グローバル標準の安定した生産体制の構築を目指しています。

ブラジル

品質面で高い評価を得ており、現地顧客との信頼関係を基盤に事業拡大を進めています。顧客の現調化ニーズに応えるべく、現地材料の活用や生産能力の増強に加え、環境対応技術の導入を通じて、持続可能な製品供給体制を構築。今後は、再生材の活用や新製品の展開を通じて、さらなる付加価値の創出を図っていきます。

その他の地域についても、各市場の状況に応じた事業運営を行っています。例えば、欧州では環境規制への対応を重視し、再生材や再生可能エネルギーの活用を進めています。ASEAN地域では、既存設備を活用した選択受注を中心に、効率的な事業運営を継続。中国では市場環境の変化に対応しながら、事業の再編を検討しています。

これらの地域戦略は、製品の快適性・環境性能・生産性の向上といった企業価値の強化と連動しており、グローバル全体での最適ナリソース配分を通じて、持続可能な成長と安定的な事業運営を実現していきます。今後も、地域に根差した事業基盤の構築と、技術革新による価値創出を通じて、当社のウェザストリップ事業は世界中のモビリティ社会に貢献していきます。